

活 用 事 例	古河市立古河第五小学校	平井聡一郎校長
活用事例タイトル	i P a d アプリ「C l i p C M」の活用	
対象授業科目/活動	特別活動（学級活動）	
授業または活動の概要	<p>第5学年の特別活動において、児童相互の理解を深め、良好な人間関係形成のために用いた。第5学年は在籍29名である。授業では、二人組のペアになり、互いに相手の良さを見つけ、相手をPRする4コマの静止画を用いたCMを作成した。第1段階として、絵コンテを作成し、対象者の良さ、特徴を表す画像は何が良いかを検討する。4コマの画像が決定されると、ナレーション原稿を考える。次に第2段階では、場面設定し、カメラ機能で必要な画像を4コマ撮影する。そして第3段階で初めて、C l i p C Mを用いて、CMづくりをする。画像を取り込み、必要なテキストデータを入力する。そして、様々な効果を挿入した後、ペアで相互に見て、修正を加えていく。最後は全体での発表会となり、相互評価をしていく。発表会では、A p p l e T Vを用いてプロジェクターに投影することで、テンポ良く発表することができた。</p>	
ICT活用により期待できる効果 ICT活用のねらい	<p>C l i p C Mは4コマの画像による表現ツールのため、相手の良さを端的に表すものを、4つ選ぶ作業が情報の厳選となる。情報の整理の場面である。また、CMに挿入するテキストデータも、相手に伝えるということ意識し、短いコメント、キャッチフレーズにしていく作業となる。効果音、表現効果もできあがった作品の検討を重ねる中で、容易に修正ができる。このため、このC l i p C Mによる作品制作は、目的意識をもって、情報の収集、加工、発信という情報処理の過程の理解につながる学習となっている。</p> <p>i P a dを導入したばかり本校にとって、i P a dの導入の教材としても効果的であった。このアプリは、第6学年の社会においても、歴史上の人物のCMづくり、卒業式での自分の夢のプレゼンに用いた。今後、学校のCM、委員会でのPR（様々なお願いCM）など多様な活用の可能性があると思われる。</p>	
評価、振り返り	<p>昨年度i P a dを導入した本校では、i P a dの導入教材としても効果的であった。この学習後、テキスト入力、カメラ撮影、画像処理など、今後の活用に必要なスキルを全員が身につけることができた。また、いきなり機器に触れるのではなく、絵コンテを描かせる過程を入れたことで、マルチメディア作品の制作の過程を理解し、基本的なスキルが習得できた。</p> <p>授業参観の公開授業で発表会を行ったところ、保護者の反応もよく、ICT教育への関心、理解が高まった。</p>	
その他	<p>i P a d アプリC l i p C Mは、電通の社員の開発したCM制作過程をモデルにした表現ツールである。4コマの絵コンテをもとに、目的に応じた表現活動が容易にできる。</p> <p>http://www.sis-web.jp/clipcm/</p>	